



2023~2024年度
国際ロータリーテーマ



UEDA EAST

上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

世界に希望を生み出そう

WEEKLY REPORT

MARCH.27.2024 第2097回

会長/上原 達 幹事/松山賢太郎 会報委員長/玉井権太郎

例会: 毎週水曜日 午後12:30 ~ 1:30

会場: 上田東急REIホテル

事務局: 上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F
TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

URL: <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast/rc/>
E-mail: uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp

イニシエーションスピーチ

を生み出そう



遠藤 隆幸君

I 入社前まで

○1967年9月2日 山形県村山市に男三人兄弟の次男として出生。

父は左官業を営み、母はそれを支えつつ祖父母と農業に従事する典型的な昭和の家庭。我儘な長男と甘えん坊の三男に挟まれ、我慢を強いられる環境から抜け目のなさが育まれる。

○1973年4月 村山市立袖崎小学校に入学。

水泳やスキー（クロスカントリー）に精を出し、そこそこの成績をあげた。同じ学校の知り合いに負けるのが嫌なので結構頑張っていた。自分は負けず嫌いであるという自覚を持った。勉強しなくても成績もそこそこ、運動もでき、先生に頼りにされ、友人にも慕われ、今思うと人生の中でも精神的な負担がなく幸せな時期だった。

○1979年4月 村山市立袖崎中学校に入学。

部活（バスケ）で先輩後輩という新たな関係を認識。3年の7月に父が事故で死亡。左官業は継続不能となり廃業、母は近所の縫製工場に勤務し生計を立てた。将来、やりたいことも特になく、自分より若干成績が低いやつが受験する普通高校に、「あいつが行くのなら自分も大丈夫だろう」という薄弱な根拠で受験し、一応合格。

○1982年4月 山形県立山形南高等学校に入学。

電車で1時間の通学。体を動かしたいため水泳部に入部。このころ、相対性理論などの本を読み漁っているうちに統一場の理論を確立したいという夢を持つようになり、理学部物理学科を目指す。しかし、共通一次試験が極めて振るわなかったため方針変更し、得意な物理を生かし二次試験で挽回の可能性にかけ、電気工学科を受験し何とか合格。（経済事情から国立一本）

○1986年4月 国立秋田大学鉱山学部電気工学科に入学。

同時に学部内の北光寮に入寮（新入寮生は80人ほど）。高校に引き続き水泳部に入部。

大学生活の中心は寮生活だった。学生の自治寮であり、生活費は極安。寮費・水道光熱費で5千円強、食費は1日三食で400円、1ヶ月の食住が2万円程度で済むという驚きの安さ。当時月28,000円だった奨学金だけでも生活は

十分可能だった。当然、良い面だけではない。築20年の鉄筋コンクリート建て、部屋は6畳程度に先輩と二人部屋。風呂は週三回。

一番つらかったのは先輩後輩の厳しさだった。体育会系というよりはパンカラ系。入寮するとすぐ、寮歌の練習と挨拶の練習が始まる。最初の試練が入学式前日の新入寮生歓迎大会食（飲み会）だ。挨拶は一人ひとり壇上でどんぶり酒を飲みほした後やるが、登壇前に相当飲まされている。当然、酒が飲めない人もいれば、へべレケで挨拶できない人もいる。その場合、同部屋の先輩が代わりにやる。翌日の入学式は（二日酔いで）欠席の人もいれば、会場に向かう途中で脇道に逸れる人もいる。

新入寮生歓迎行事は他にも、市内の名所を回るマラソン大会（20km弱、地理を把握するのに役立つ）と階コンパがある。居住区域は南寮1~4階、北寮1~4階の八つのフロアに分かれており、一フロアを一つの単位とした組織となっているが、その単位による飲み会が階コンパであり、これも1年生にとっては厳しいアルハラ現場である。他にも「部屋訪問」というしきたりがあり、酔った先輩が夜中に部屋のドアを蹴って突然入室し「俺の名前を言ってみろ」と名前当てクイズを出される。そのため、1年生は先輩全員の顔・名前・学年・学科を覚えなければならないというプレッシャーもある。このしきたりは、新入寮生歓迎行事とは無関係に1年中ある。

新入寮生歓迎行事以外にも、初夏の寮祭、秋のスポーツ・ギャンブル大会、3月の歓送行事がある。

寮祭は、寮内開放（奇声と騒音で日頃ご迷惑をおかけしているご近所の方に開放し、寮内の生活の様子やバンド演奏などでもてなす）と新入寮生による女装大会がある。女装大会の準備として、先輩に周辺の大学・短大・看護学校などの女子寮に連れていかれ合コンをセッティングし、女装のための服を貸してくれる女性を探すのである。寮祭期間中も、もれなく階コンパと大会食があり、1年生のアルハラ地獄は続く。

スポーツ・ギャンブル大会は階対抗戦で行われ、主にスポーツ（ソフトボール、バスケ、サッカー等）は週末に、ギャンブル（麻雀、花札、ポーカー等）は平日夜に

開催され、総合得点で順位をつける。商品は日本酒で、階コンパで消費される。

歓送行事の大会食は卒業する4年生が挨拶を行うが、挨拶前に飲むのは一升大盃である。新入寮生歓迎大会食は酔いつぶれて知らなかったが、2・3・4年生にはお決まりの歌があった。卒業生の挨拶の後、2年生が歌っていた歌を1年生が、3年生の歌を2年生が、4年生の歌を3年生が歌い、最後に北光寮離別歌を全員で歌い終了する。なお、2年生と3年生の持ち歌である替え歌はピンク系のおふざけ感があるが、4年生の鉦専数え歌は、秋田大学鉦山学部の前身である秋田鉦山専門学校の学生が、20世紀初頭の日本の未来を切り開く、夢と希望と情熱に満ちた男気溢れる歌である。(秋田鉦山専門学校は、信州大学繊維学部の前身である上田蚕糸専門学校と設立の経緯・時期(1910年3月)が同様に、官立の旧制専門学校)

このような生活環境に耐えられない1年生は数多く、早いものは入寮翌日から夜逃げし、GW明け、夏休み明けと減っていき、2年目以降も寮に残るのは約半数の40名程度である。就職先は電気工学科を選択した時点で電力会社と決めていた。担当の先生からは地元の東北電力を強く勧められたが、中部電力に希望し入社が決定した。

水泳部に入部した理由は、部室に風呂があることである。プールで泳ぐのは5月から9月頃だが、シーズン初めは水も冷たく気温も低いため、風呂は必需品である。寮の風呂は3回/週しかなく、勿論銭湯はあったが、お金がない自分はタダ風呂の魅力だけに誘われて入部した。ちなみに一歳年上の妻とはこの水泳部での出会いがきっかけだが、部室の風呂で交わした言葉が最初の会話である(勿論水着を着た状態)。大会は、目立った成績は残せなかったが、大会終了後の大学対抗一升瓶回し飲みレーが私の主戦場で、寮生活での経験をいかんなく発揮した。寮生活はつらいこともあったが、極限状態の中で自分をさらけ出しあった友人とは、今も深いつながりを持っており、4年間は貴重な経験となった。

II 中部電力(株)入社以降

○会社の業務概要

・自宅で使っている電気は、発電燃料を海外から「調達」し、発電所で「発電」して電線などを使って「お届け」している。

・従来は、「発電」「送配電」「小売り」をすべて一体会社として運用していたが、2020年の電気事業法改正により、発電・送配電・小売りのそれぞれの部門に分社化された。

中部電力に例えると、発電部門のうち水力と原子力が中部電力本体、火力がJERA、送配電部門が中部電力パワーグリッド、小売部門が中部電力ミライズである。

送配電会社は従来通り、各エリアに1社・全国で10社であるのに対し、発電会社や小売会社は数百社にのぼる。

・電気は作る量(供給)と消費量(需要)が一致してい

ないと、バランスが崩れ、大規模な停電に繋がる。数年前に北海道胆振東部地震で発電機が停止し、需給バランスが崩れ周波数が低下し、北海道全域が大停電いわゆるブラックアウトに繋がった。

・発電機の種類には、火力発電や原子力発電、水力発電などがある。

・発電所でつくられた電気を運ぶための設備として、送電線、変電所、配電線などがある。

なお、旧上田営業所では6kV以下の配電線関連設備の工事・維持・運用およびお客さまからの受付・連系工事対応を行っていた。上田支社は、加え佐久営業所管内の同様の業務内容、さらに送電線や変電所およびお客さまや発電設備の連系に関する業務なども行っている。

・他社とは、連系線を介し関西、北陸と周波数の異なる東京電力とは周波数変換設備を介して連携している。上田市は東信変電所から電気を送られている。なお東信変電所から供給されている主なエリアは、坂城・上田・青木・長和・立科・東御・小諸・御代田・軽井沢である。

・中部エリアの主な発電所のうち、現在、尾鷲三田と渥美は休止状態、原子力唯一の浜岡は停止状態、二か所の石炭・バイオマス発電所と、残りのほとんどがLNG火力である。なお、日本海側唯一の上越火力は、長野県全域の電力を一か所でまかなえる規模である。

・電気事業の特徴は、膨大な固定資産を有する典型的な設備産業であり、巨額の資金調達が必要であること、生活・産業活動に必要な不可欠なインフラであり採算の取れない辺地でも供給が義務付けられていること、基本的には生産即消費でありつくりおきできないこと。

○私の業務経験

・携わった主な業務

①変電所・水力発電所の保守・工事／②154kV以下電力系統の運転(支社給電制御所)／③電力需給運用(中央給電指令所・年間計画)／④電力系統運用ルール策定／⑤電力売買契約／⑥電源・流通設備計画(長期)／⑦燃料調達／⑧事業場における配電設備工事・保守・運用、お客さま対応(契約・料金)／⑨小売電気事業者・発電事業者の当社流通設備への連系対応(契約・料金)

このうち、②～④が主に系統運用業務に該当し、入社以降半分以上の期間従事している。

・電力ネットワークは、各種発電所とそれらを結ぶ送電線、変電所、工場や商業ビル、一般のご家庭に送るための配電線で構成される。これらを24時間365日監視・コントロールするのが、系統運用業務である。主な業務は、需要と供給を常にバランスさせ様々な電源を経済的に組み合わせる需給運用、電力ネットワークに流れる電気の量や電圧を常に監視・制御し故障発生時には安全・確実・早期に復旧する系統運用、これらを行うために必要な高信頼度のシステム開発・保守を行う制御システム

に大別される。

・24時間365日監視・コントロールするため、当然交替勤務を行っている部署がある。中央給電指令所・基幹給電制御所および10支社給電制御所。

業務の情報が集約された系統盤は、システムの状態および建物の電源設備状況、中部地域の雷雲状況、太陽光出力予想および実績、電力需要予想カーブおよび実績、主要発電機出力状況、流通設備の状況。TVなどである。

TVは24時間つけっぱなし。NHKの地震情報が最も早く確認できるからである。どこかで大規模地震が発生し需要または発電機が大量に停止すると、周波数が大きく変動する場合がある。その際、地震情報と紐づけ、他エリアへの応援融通の準備を開始する。右端の柱の上に神棚もある。最後は神頼み。

夜間は多くの人は寝静まるが冷蔵庫や夜間でも稼働する業務などにより一定の電力需要がある。7時ごろから工場などの稼働により一気に電力需要は増加する。昼休みに伴い一気に需要は落ち込むが昼休みの終了により再び需要は増加する。17時ごろに工場の停止などにより需要が低下する一方、電灯照明需要により盛り返しつつ徐々に低下していく。電力需要カーブは季節によっても異なる。夏は最高気温が発生する午後冷房需要が多くなるため一日の最大電力が発生し、冬は晴れた日の朝が冷え込むため暖房需要がかかる午前に需要のピークを迎える。予想した24時間の需要カーブに対し、最も経済的になるよう安い電源から順に積み上げていく。太陽光や風力は天気次第の電源なので、コントロールできる火力機や揚水発電機などで予測誤差のしわ取りを行う。火力発電機は水を温め蒸気にしてタービンを回すため、起動してから電気を作るまでに一定の時間を要する。火力機の種類や状態にもよるが、早い場合は数十分、遅い場合は24時間以上かかるケースもある。

・中部エリアにおける太陽光発電設備の送変電設備への連系は年々増加している。東日本大震災以降、再生可能エネルギー固定買取という一定期間高値買取が約束された制度が開始され、以降、太陽光連系量は年々増加し、中部エリアでは、現在1000万kWを超えている。燃料費との相対比較により変動するが、再エネ賦課金の電気代に占める割合は現在15%前後である。

・太陽光発電大量連系による影響は、晴れた場合と雨の場合で如実に表れる。4月は冷暖房需要がほとんど影響しない電力需要が小さい時期。晴れば最大で4割程度の需要を太陽光でまかなっている一方、雨や夜間はほぼ供給力として見込めない。注目すべきは、晴れの日には発電していない種類の発電機を、雨の日には発電しなければならない、二重投資になっているということ。太陽光発電自体が高いというだけでなく、発電しない場合に備え、別の設備を用意しておく必要があるため、一層電気料金

が高くなっている要因である。また、GWなどの工場が停止している時期は需要は一層小さく、一方で太陽光発電の出力は最高潮に達するため、発電余剰となる。電気が余り過ぎても、需給バランスが崩れ周波数が上昇し、大停電に繋がる。2023年のGWには、中部エリアでも再エネ発電の出力抑制が発生したが、カーボンニュートラル実現に向け更なる再エネ連携が可能となる様な取り組みとしてノンファーム型接続の適用なども行っている。

・今後も増加が見込まれる再生可能エネルギーをいかにコントロールし、しかもなるべく経済的に増加させていくことが大きな課題である。勿論、再エネだけの一本足打法は危険なので、様々な電源を組み合わせてリスクヘッジすることが、より重要である。

○2017年7月 愛知県名古屋市の本店中央給電指令所に

配属。三度目の中央給電指令所配属にして所長となった。4年前まで運営課長として勤務していたころとの大きな違いは再エネ（主に太陽光発電）連系量の爆発的増加である。この時点で中部管内の太陽光発電出力は、最大需要の1/4程度（火力機最大ユニット6台分程度）を占めていた。再エネ増加は良い事ばかりではない。需要と供給が瞬時瞬時に一致しないと停電に繋がるため、需給運用者としてはお天気次第でコントロールできない供給力が1/4も占めているのは極めて不安であった。

そんななか迎えた2018年1月10日、恐れていたことが起きた。

前日の天気予報は晴れ時々曇りで太陽光発電の出力は最大出力発生時に近い出力を見込んでいた。いつも通り7時30分ごろに出社した私は、指令室から御岳山を目視することができ、予報通り晴れベースの一日となることを期待した。明け方までよく晴れたため、気温は前日予報より冷え込み、午前中のピーク需要が暖房需要の増加により想定していたよりも伸びることが少しの不安材料だった。ところが、8時前後頃からみるみる雲が西からやってきて上空を覆った。7時過ぎから出力を上げていった太陽光発電カーブは8時ごろから降下し、以降底辺付近をさまよった。

不足する供給力を賄うために稼働していない火力機を発電してもらおうと思ったが、しばらく停止していたためすぐには発電できない。実際に戦力として見込めるのは20時以降とのことだった。予想需要に対し常に一定の余力を持つことは需給運用者として常識であるが、全需要の1/4もの出力を当日自前で賄うことは難しい。上池のダム容量にて発電できる量に限りがある揚水発電を目いっぱい活用しつつ、全国の一般送配電事業者に応援融通を要請する以外助かる手段はなかった。東の会社は50Hz系であるため、周波数変換設備の容量までしか融通応援してもらえない。60Hz系最大の西隣の会社を最も頼りとしていたが、当社と似た状況にあり応援はでき

ないとの返答があった。しかし、他の北海道から九州までの会社から応援を受け、何とか乗り切った。中央給電指令所長の責任の重さを痛感した長い一日だった。

○どんなものにも長所と短所があります。耳障りの良い言葉だけにとらわれず、未来のために正しく議論していきたいと思います。

例 会 日 誌 3月27日(水) 晴れ 2023～2024 No.28

- 司 会 柳澤 誠君
- 斉 唱 「あしたはもっと」
- ラッキー賞 飯島裕也君(季節のアレンジ花)
- 友 愛 賞 小林正人君(滝澤君より恒例の`瀧澤、)
渡辺敏成君(飯島洋一君より福島県浪江の銘菓)
母袋創一君(山本君よりお菓子)
塩之入永子君(山本君より鹿児島焼酎とお菓子)



■会長挨拶 上原 達 会長

この度は、母袋卓郎さんが上田商工会議所の副会頭にご就任されました。改めておめでとうございます。今後のご活躍を期待しております。

13日の懇親会並びに新会員歓迎会には、お店を貸切りにするほどのご参加を有難うございました。久しぶりの懇親会で、親睦を深められたのではないのでしょうか。

先日、9日に上田ライオンズクラブの創立60周年記念式典に参加をしてきました。ロータリークラブからは私と上田RCの2クラブだけの出席でした。場違いな場所だとは思いましたが、ライオンズクラブとはどんな感じなのか直接体験してみたく、出席をさせて頂きました。

ライオンズクラブの名称は、創設者メルビン・ジョーンズ氏によってライオンにちなんでつけられ、紋章にも2頭のライオンの頭部がLの字の左右に配置され、それぞれ過去の歴史と未来の運動を見つめ、無償の行為があらゆる方向に向かって進むことを意味しているとのこと。スローガンは、“Liberty, Intelligence, Our Nation’s Safety”（「自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる」）。モットーは“We Serve”（「われわれは奉仕する」）であり、独力ではなく集団の力で、経済力のみならず知恵と労力をもって奉仕するというライオンズクラブの特徴が表現されているとのこと。

現在この地域には、上田、上田城南、丸子、東御の4クラブがあり、丸子LC：62周年、上田LC：60周年、東御LC：50周年、上田城南LC：48周年になるそうです。どのクラブも当クラブより歴史がありますね。

上田LCの主な活動は、「青少年健全育成事業」としてライオンズ旗争奪少年サッカー大会を開催。社会福祉事業として、上田明照会蓮の音こども園の援助。上田社

会福祉協議会へ車椅子の寄贈。能登半島地震では炊出しボランティアを実施されているとのことでした。当日もその関係の代表者をご出席をされており、支援先との関係が上手に回っていると感じました。

記念講演は、元Jリーガーで日本代表も務めた大久保嘉人さんでした。インタビュー形式をとられており、インタビューは、国見高校時代のサッカー部の先輩である上田西校サッカー部の白尾監督で、先輩後輩のつながりでお呼び出来たとのことでした。少年サッカー大会を長年開催している関係で、チームの子ども達が大勢来ており、大久保選手と間近に接することができ良い思い出になった事と思います。付き添いの親御さんも大勢参加されており、良い広報活動にもなっていると感じました。

余談ですが、大久保さんは体も小柄で、よく日本代表を務められたなと思いました。子供たちも自分でもなれるかなと夢を抱けたのではないのでしょうか。

一番驚いたのは、これだけの活動をされているのに、会員数がたったの14名。最高齢は87歳で70歳以下の実働会員が8名とのことでした。クラブ運営では財政面でもかなり厳しいのではないかと思われました。

ロータリークラブしか知らない私にとって、良い経験となりました。

■幹事報告 松山賢太郎 幹事

- ・地区研修協議会のご案内。4月7日（日）オンライン
- ・戸倉上山田RCよりRYLAのご案内。5月11日・12日
- ・うえだこどもまつり実行委員会より後援依頼。
- ・長野県聴覚障害者スポーツ体育大会の後援依頼。

■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	52	48	15	—	68.75%
前々回	52	48	16	11	89.58%

ニコニコBOX

(敬称略)

飯島(裕)、飯島(洋)、上原、遠藤、小田中、北村、工藤、倉島後藤、小林、塩之入、白井、滝澤、竹内、玉井、田村、塚田手塚(多)、手塚(た)、中嶋、松山、水出、蓑輪、宮坂、宮澤村上、母袋(創)、母袋(卓)、柳澤亨、柳澤誠、山本、渡辺 ※宮澤隆明君/遠藤さん、お話し済みです！

※母袋卓郎君/4月より、上田商工会議所副会頭を仰せつかりました。

※倉島 博君/母袋卓郎新副会頭、上田の未来を託します。

※母袋創一君/母袋卓郎君、ご活躍祈ります。

※後藤正直君/桜だよりももう少しですね。

本日の金額/44,000円 累計/1,023,000円

[次週のプログラム]

4月10日(水) 会員卓話 柳澤亨君